

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192900163		
法人名	社会福祉法人たくみ		
事業所名	グループホームえぶりわん鶴瀬Nisi		
所在地	埼玉県富士見市鶴瀬西2-8-25		
自己評価作成日	平成27年12月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年1月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・看護師との連携が取り易く、ご利用者の体調面に関して気軽に相談でき、様々な助言を受けることができるので、ご利用者、ご家族、職員が日々安心して過ごすことができる。  
 ・ご利用者の心身状態の変化に応じてケアカンファレンスを開き、職員の意見を聞き、ケアプランの見直しを行い、安全に生活ができるよう支援している。  
 ・ご利用者に合わせたレクリエーションや家事作業を取り入れており、生活の中に楽しみやハリ、達成感や役割にも繋げている。またご家族との連携を密に行い、なんでも相談していただける信頼関係の構築に努めている。  
 ・季節のイベントや施設見学の受け入れ等を通して地域の方との関わりを大切にし、地域に根ざす施設を目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・入居者の生活の場として過ごしていただくこと、入居者の思いに寄り添うことを第一に考え、家族、地域、医療の様々な面から協力し合い、それぞれの「生活」を作り上げられている。また、ケアについては職員が一方的にお世話するのではなく、出来る事はやっていたり、主体的な「生活」を支える支援が行われている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「GH内の雰囲気が良く、明るい感じがします。職員も母に対してやさしく接してくれて大変感謝しています」、「認知症予防の対策として手先を使ったり、歌を唄ったり散歩等、取り入れてくれているのでありがたいことです」などのコメントが寄せられ、職員、事業所の前向きな取り組みに高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、食事支援について、栄養士と協力し家族へのアピールに努められ、掲示板や「たくみだより」に載せるなどの工夫が図られたことから、目標が達成されている。また、災害発生時の地域住民との協力体制作りについては、運営推進会議などで議題に掲げ検討されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、朝礼等で理念について話をしている。	理念について繰り返し会議の場で、「不快な思いをさせない」、「適切な認知症ケア」などの考えが共有され、実践されている。在宅生活の質の向上につなげられるよう、新しい職員への指導、意識付けも日々行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア受け入れ、法人行事に参加してもらう	地域からの介護相談や施設見学を受け入れ、地域密着型事業所の特性の理解が深められるよう努められている。また、定期的に地域の保育園の園児との交流や音楽などのボランティアも受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方、地域包括等へ相談に来られた方などの相談を随時受けている。利用者の家族、近所の方等に対して相談、アドバイス等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	サービスを認知してもらうことについて等アドバイスを頂き実施している。	家族、市担当者、知見者などが参加され、地域の防災対策、事業所の様々な取り組みや特性について質疑応答がなされている。会議での情報は速やかに現場に申し送り、サービスの向上に反映されるよう努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内の地域密着型事業所と連絡会を作り、共同で市にも実情の訴えや協力をお願いをしている。	市の敬老会行事への参加や図書館、公民館を利用するなど日常的に交流が図られている。また、地域密着型事業所の連絡会にも参加し、他の事業所と共同で市とのつながりを作るなどの取り組みがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人設置の身体拘束防止委員会に参加し、目配り等で拘束をしない対応をしている。	利用者の安全を第一に考えながら、利用者の自由を妨げないよう、身体状況に応じた見守りを主にケアが実践されている。在宅時の状況にも気を配り、家族には何でも相談いただくよう話しかけ、フォローに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、日頃から全身状態の観察や本人、家族等と話す機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の安心サポート事業や、当法人の前身であるNPO法人うるかむにおいて後見業務を行っているため、必要に応じ相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明やパンフレット等を使用して説明を行い、不明な点は随時相談受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族とはサービス時や送迎時に直接要望や意見を聞き取っている。 訪問、電話連絡もその都度行い、情報共有に努めている。	通所や訪問時などに利用者・家族から直接話を聴いて、その内容を報告し、会議の議題として取り上げられている。また、送迎時の短時間の会話や連絡ノートなどからも、家族の本音が伺えることもあり、傾聴を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕に職員間で申し送りをし、サービスへの取組み等意見交換している。	職員間の話し合いは日常的に行われ、意見・提案は会議や各種委員会でも取り上げられ、サービスの向上にも反映されている。看護師や厨房の職員などが参加し、全体会議も開催され、部署間の連携が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から積極的に職員に声をかけ、心身の状態を確認している。場合によっては個別面接を行い、不満や要望等をくみ取って働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修や勉強会を行っている。 外部研修についても積極的に参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着連絡会を通し、事業所間の交流や相互訪問を行っている。今後、勉強会等の企画も予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調、契約などの際本人に安心してもらえるようなコミュニケーションを心がけている。サービス内容も利用者主体となるように、十分な聞き取りを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様しっかり話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を検討する中で、多機能以外のサービスが妥当と思われるときは、他のサービスへの移行を速やかに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手を出し過ぎず、声かけや見守りでできることはご自分でしていただいている。外出や作業等ご利用者からの意見も積極的に取り入れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護の仕方をアドバイスしたりご自宅での介護の仕方を参考にさせてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や今まで関わってこられた方との関わりは継続していただき、負担になっていること、介護職で関わる方が良いことは代わりに若しくは一緒に支援する。	在宅生活を支えるために以前から力を貸してくれている馴染みの知人、友人さらに民生委員とのつながりは、サービス利用後も支援が継続されている。また、近所の方々と話し合う機会を設け、負担にならないよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に話をする中で、トラブルにならずに交流が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了となっても相談等はお受けする旨を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困っているところを支援して、なるべく今までのスタイルを変えずに生活を継続できるように努めている。	食事や入浴、ゴミ出しなど、生活の中で困っていることを聴き出すように取り組まれ、在宅生活の継続への支援がなされている。自宅に訪問し、世間話などから、利用者の思いを察し、大事な約束は守るよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中でご本人、ご家族からお話を聞き、職員間で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問、通いの利用を通じて心身の状態の変化については記録を残している。 家族、周囲の方からの情報も申し送りし、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者等の話しや希望を踏まえ、職員で意見を出し合い日々の対応をしている。計画作成の際は対応に即したものに随時見直している。	職員が「在宅での生活目標と何が必要か」を考え、小規模多機能型居宅介護サービス独自の介護計画が作成されている。利用者・家族の要望も反映され、自宅に訪問時、家族に説明し、納得と同意が得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のサービス記録票に記入し、対応等は申し送りやフロア会議で共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対して決められたサービス内容に捉われず対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町会、公民館等のサロンやイベントなど参加できるものや協力できることは情報収集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関はそれまでかかりつけていたところを継続していただく、新たに受診する又は変更したいという場合は情報を伝えるようにしている。	かかりつけ医への受診には、必要により職員が同行し、事業所での日々の様子や食事の状況についての情報が伝えられ、医療機関へのスムーズな受診ができるよう支援がなされている。薬を預かり管理し、飲み忘れや誤薬の防止に努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師が配置され、日々のバイタルチェック、服薬確認や塗布薬の対応等なるべく看護師が対応、その他状態の変化等についても随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現利用者には対象者いないが、以前は入院している医療機関の医師や相談員等に連絡を取り、情報交換や指導をしてもらっていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現利用者には該当者なし。 終末期の方等がおられる場合には、どのような対応を望むか、事業所はどこまで関わるかなどを話しておく。	利用者の状態について看護師を含めて家族との話し合いを随時行われている。在宅での生活の継続を望まれるのか、施設入所か、医療的な措置を求めるのかの考えを聴き、必要なアドバイスが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応についてマニュアル作成や年間の研修計画に予定はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市内の避難場所は確認している。利用者の避難方法はいる場所でも変わってくるので詳細な手順は準備していない。施設での避難訓練には参加している。	訓練に際しては、現在の利用者の状況、それに伴う避難方法などが確認され、特に新しい職員への意識付けと教育に力を入れている。また、災害発生時、自宅におられる利用者の安否確認をする方法なども決められている。	法人内での災害発生時の協力支援体制は整えられていることから、さらに地域との相互協力を図るため、運営推進会議などを活用して合同訓練を実施したり、役割について話し合うなどの取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションをとる際プライドを傷つけない言葉かけができるよう、職員同士でお互い注意している。	理念に基づき、一人ひとりの尊重を第一に、羞恥心やプライドにも配慮したトイレや入浴への声かけ、プライバシーの確保に努められている。利用者の私物などは個別のロッカーに保管され、本人の了解を得てから、手を触れるよう心がけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるものは本人の意見を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な一日の流れを決めず、一人ひとりの希望や好み、状態に合わせて対応している。送迎時間等もその日の希望で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に化粧をされている方も多く、着衣を選ぶ際も好みを聞き取るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けは、なるべく一緒にしていただいている。お一人で食事される場合にも職員と一緒に食べたり、座って話しながら楽しく食べていただけるようにしている。	利用者も手伝って、和気あいあいとご飯やみそ汁の盛り付けをしたり、皆で相談しておやつ作りをするなど、出来る事への意欲を引き出すよう努められている。体調に合わせて盛り付け量を加減するなどきめ細やかな支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設では、水分は常に何か飲めるような状態にし、声掛けをしている。希望者には平日の夕食は手作り弁当をお届けし、栄養バランスを確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設での食後は口腔ケアを勧め、なるべくうがいがだけでもしてもらえるように声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行かれる方にも、食事の前後等抵抗無く立っていただけるときに、うまくトイレへ促すようにしている。	スムーズな声かけにより、こちらにおられるときは失敗することがないように、トイレ誘導に心がけられている。また、在宅でのトイレの環境などにもアドバイスをし、医療とも連携し、服薬の変更を行うなど、自立への支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	在宅生活が主となっている為排便については把握しきれていないが、聞き取りの中から便秘がちであった場合に食事や運動等のアドバイスをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の予定や希望、体調に合わせて入浴時間を決めずに対応している。なるべくゆっくり入っていただけるよう心がけている。	その日の体調や過ごし方の予定に合わせて、午前を午後に変えるなど臨機応変な対応がなされている。入浴中は健康チェックと入居者の話を聴くチャンスと捉え、安心して安全に入浴できるようプライバシーの確保や温度管理に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	泊まりの居室をベッドメイクしてあり、休みたいときに利用してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の同行やお薬手帳などで、常に現状の確認をしている。管理が難しい方の薬は預かって必要分をお渡ししている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	工作や体操等も行うが、外出やカラオケ等個々の好きなことを多く取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて頻りに外出支援している。外食や買い物にも一緒に出かける機会を設けている。	外に出て外気に触れることを大切に、毎日近所の公園などへ散歩に出かけられている。通って来られた時に、お正月の食事の買い物に出かけられる利用者もおられ、利用者からの外出への要望にはできるだけ応えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の必要に応じて直接ご自身で金銭管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が出た時には対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる環境を心がけている。	季節感が感じられ、明るく広々としたスペースにテーブルや椅子が置かれ、利用者が自由に動かれ、ゆっくりくつろげる共用空間作りがなされている。昼食後は皆が集まり、レクリエーションやカラオケに興じる姿も見られ、楽しい笑い声が聞こえてくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中も泊まりの居室を利用していただいたり、離れた場所に席を設けたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりサービス利用は現在なし。日中居室を使用する場合には安心して休める環境を整備している。	泊りサービスの利用者はいないが、日中利用時に休憩される利用者には、それぞれ個室を利用いただいている。常にベッドメイクや清掃も行き届き、職員も目配り、気配りに努め、くつろぎの時間となるよう支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは自分でしていただけるように備品に記名をしたり、声掛け、見守りしている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームえぶりわん鶴瀬Nisi

## 目標達成計画

作成日:平成 28年 3月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今年度も災害に対しては事業所として総合的訓練(1/22)を行っているが、町会や地域の住民との連携や協力体制はまだ不十分である。	日頃から町会や近隣の方々と連携をとり、避難訓練などを一緒に行い災害時、特に夜間などについては協力をいただける体制を整える。	事業所として定期的(年に2回)に避難訓練を含めた消防訓練を行うとともに、日頃から職員の防災意識を高めていく。今後も運営推進会議等で町会や民生委員の方々と話し合う機会を持つことで、連携を深め一緒に訓練に参加をしていただくよう働きかけ、万一の際には協力をいただけるようにする。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。